

HANDS

98
2025

Kokura Memorial Hospital



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

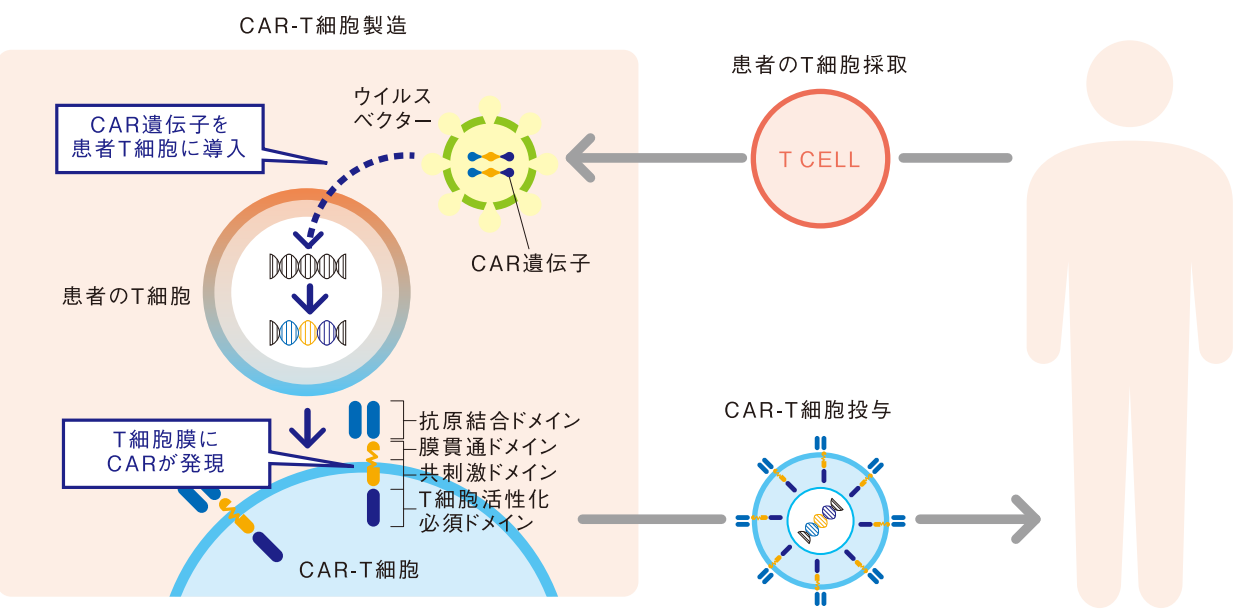
輸血前に行う血液型検査の試薬による染色の様子。血液内科とは切っても切れない大事な検査です。

北九州初導入
血液がん治療第4の柱 免疫細胞療法
CAR-T細胞療法
始動

CAR-T細胞療法とは、遺伝子導入により改変させた患者さん自身の細胞を用いて
血液中のがんと戦う、最先端の免疫療法です。

CAR-T細胞療法のしくみ

CAR-T細胞療法は、患者さんの血液中のT細胞を遺伝子改変し、がん細胞を攻撃するCAR-T細胞を作る治療法です。



私たちの体にはがん細胞を攻撃・排除しようとする「免疫システム」が備わっています。免疫は、血液中の様々な免疫細胞が連携して働きますが、特にがん細胞を直接攻撃するのがT細胞と呼ばれるリンパ球のひとつです。この治療ではまず患者さんの血液から機械を使ってリンパ球を採取し、その中から免疫細胞のひとつであるT細胞を取り出します。そしてこのT細胞にがん細胞を攻撃する「CAR（カー）」（別名：キメラ抗体受容体）と呼ばれる突起のようなものを遺伝子導入という特殊な方法で取り付け、患者さんの体に戻すというものです。CAR-T細胞は患者さんの体の中でどんどん数を増やしながら、がん細胞を攻撃して死滅させます。一度体内に入ったCAR-T細胞は長く残り、再びがん細胞が生まれても早めに攻撃し、がんを予防する効果もあります。

当院で取り扱っているCAR-T療法「イエスカルタ®」

【対象患者】※適応にはさまざまな条件があります。

- ①びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 ②原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫
- ③形質転換濾胞性リンパ腫 ④高悪性度B細胞リンパ腫

北九州初導入

CAR-T細胞療法とは

血液がん治療には、従来3つの柱がありました。
抗がん剤療法、放射線療法、造血幹細胞移植です。
これに続く第4の柱が、「免疫細胞療法」です。

2019年に国内で認可された細胞療法「CAR-T（カーティ）療法」がその免疫療法のひとつに当たります。この治療は、患者さんの免疫細胞（T細胞）を人工的に強化して、がんへの攻撃力を高める、これまでになかった治療法です。当院では2024年9月、北九州地区で初となるCAR-T細胞療法導入病院となりました。悪性リンパ腫の患者さんへの新たな選択肢として期待されています。



チーム医療で治癒を目指し、高度医療を提供する血液のプロフェッショナル

北九州市のみならず下関、大分など周辺の地域を医療圏として、造血器腫瘍に対する化学療法（抗がん剤治療や分子標的治療）、放射線療法、および造血幹細胞移植（自家および同種）から、貧血、血小板減少、血液凝固異常などの一般的な血液疾患の治療まで幅広く診療を行っています。特に造血幹細胞移植は早期より導入して積極的に取り組んできました。新しい免疫細胞療法として、2024年9月よりCAR-T細胞療法の認定施設となり、北九州医療圏の高度医療を担う血液内科として最適な治療を提供できるよう取り組んでいます。血液がん治療、移植、輸血療法などに携わる多戦種のスタッフと協働し、これからもチーム一丸となって患者さんの治癒を目指してまいります。

AKIHITO YONEZAWA

血液内科主任部長 米澤 昭仁

専門分野

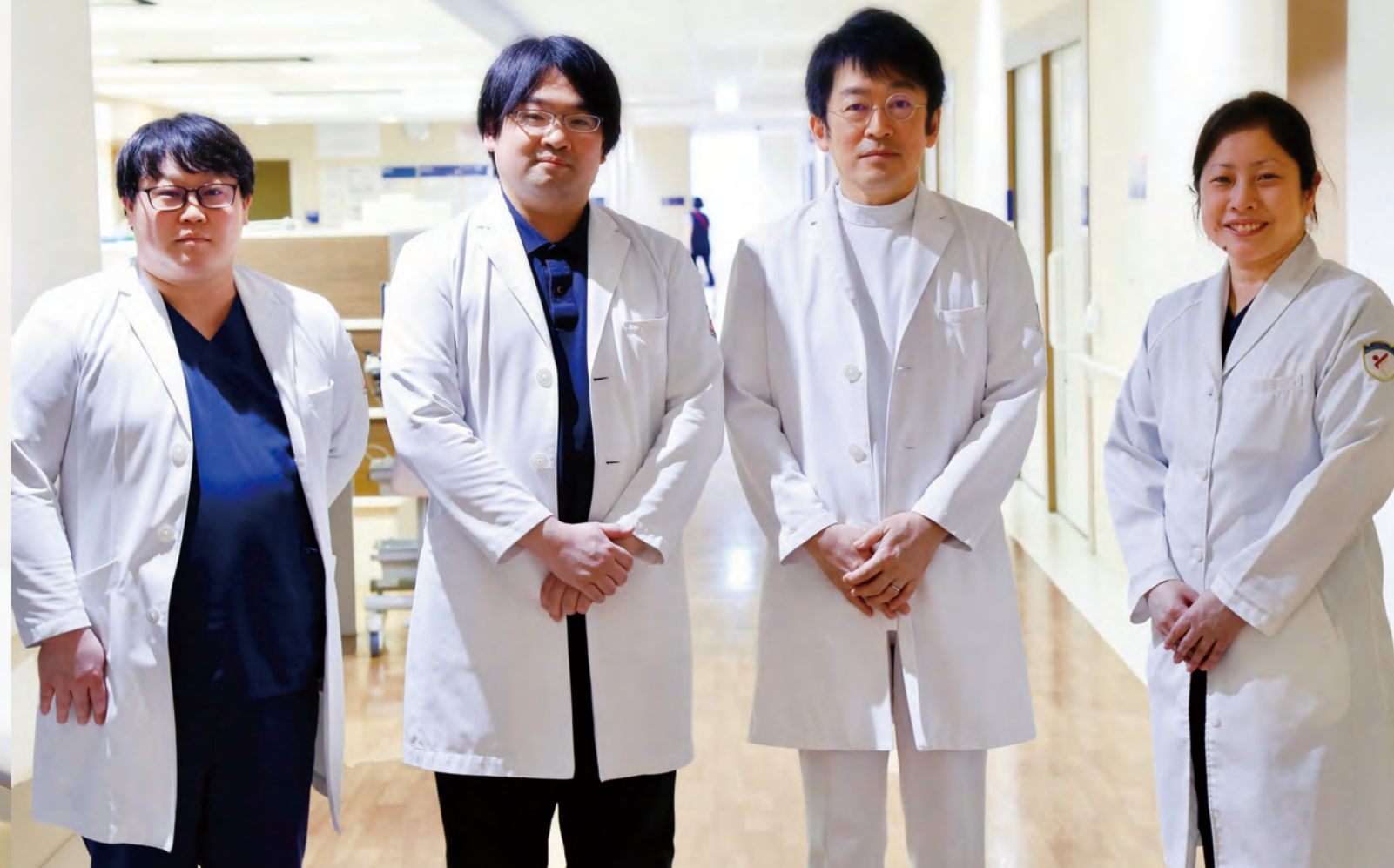
白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を中心とした造血器腫瘍、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの造血不全症（造血障害）、自己免疫性溶血性貧血・血小板減少、凝固異常症など血液疾患全般を対象として診療しています。特に、当院は骨髄バンク・臍帯血バンク認定施設であり自家・同種造血幹細胞移植治療に積極的に取り組んでいます。また、新規治療薬も積極的に取り入れ、いくつかの臨床試験にも計画・参加しております。

専門医情報

- ・輸血部部长
- ・京都大学医学部臨床教授
- ・がん診療部副部长
- ・日本血液学会 指導医 専門医
- ・日本内科学会 認定医 総合内科専門医
- ・指導医 教育責任者 評議員
- ・日本がん治療認定医機構 指導医 認定医
- ・日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- ・日本感染症学会ICD
- ・日本医師会 認定産業医
- ・日本輸血細胞治療学会 認定医
- ・日本エイズ学会 認定医
- ・日本救急医学会 ICLSインストラクター
- ・日本内科学会 内科救急 JMECCインストラクター
- ・日本リンパ網内系学会
- ・細胞治療認定管理士
- ・医学博士

Hematology

血液内科



FUMIE IWAI

血液内科副部長 岩井 文絵

専門分野

造血器悪性腫瘍に対しての化学療法および造血幹細胞移植療法を専門としています。特に造血幹細胞移植療法に対しては血縁、非血縁移植のみならず、臍帯血移植、HLA不一致移植などの治療、最新の治療法の導入を積極的かつ精力的に行っています。比較的高齢の方、他の病気をお持ちの方にも、ご希望があれば造血幹細胞移植療法を検討し、白血病や骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などの治癒を目指した治療を行っています。

専門医情報

- ・日本内科学会 専門医 指導医
- ・日本血液学会 専門医
- ・日本造血細胞移植学会 ・日本癌学会

YASUYUKI OTSUKA

血液内科副部長 大塚 泰幸

専門分野

造血器腫瘍全般、造血障害をはじめとして、血液疾患全般を専門として診療しております。造血幹細胞移植療法にも積極的に取り組んでいます。病気だけでなく、全人的医療の実践を心掛けています。

専門医情報

- ・日本内科学会 認定医 総合内科専門医
- ・日本血液学会 専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ・日本造血細胞移植学会 認定医
- ・日本リンパ網内系学会
- ・医学博士

NAOTO MIYAKAWA

血液内科 宮川 直人

専門分野

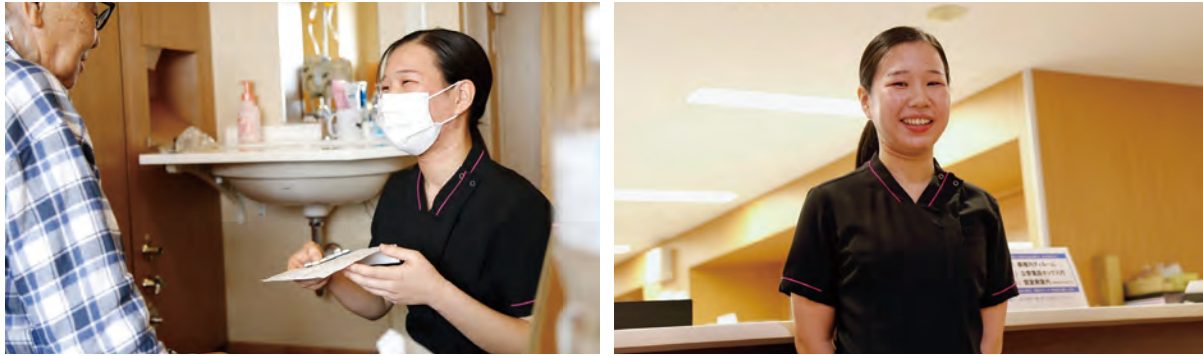
造血器腫瘍疾患、造血不全など血液疾患全般を専門として診療しております。造血幹細胞移植療法や新規薬剤による治療なども積極的に取り組んでいます。ガイドラインに準じた治療をベースとしつつ、患者さんの生活背景などをできる限り考慮した、患者さんに寄り添った医療を心がけております。

専門医情報

- ・日本内科学会 専門医
- ・日本血液学会
- ・日本造血細胞移植学会

病棟薬剤師

患者さんとチームスタッフを支える薬の守り人



吉本 和佳

病棟薬剤師は安全で最適な薬物療法を提供する役割があります。日頃から服用している薬剤や治療に用いる薬剤の副作用・飲み合わせを確認し、患者さんへ薬剤に関する指導をしています。新しい抗がん剤を使用する際は、安全に投与できるよう情報収集を行い、医師と協議の上でレジメンを作成します。また副作用の発現を未然に防ぐために、チームで共同しながら継続的にモニタリングを行っています。血液内科の患者さんは病気と長い付き合いになる方が多いため、日々の服薬に対する理解が大切です。患者さん一人ひとりの生活背景に合わせながら、丁寧でわかりやすい説明を心掛けています。

認定造血細胞移植コーディネーター

造血幹細胞移植を必要とする患者さんやドナーをつなぐ架け橋



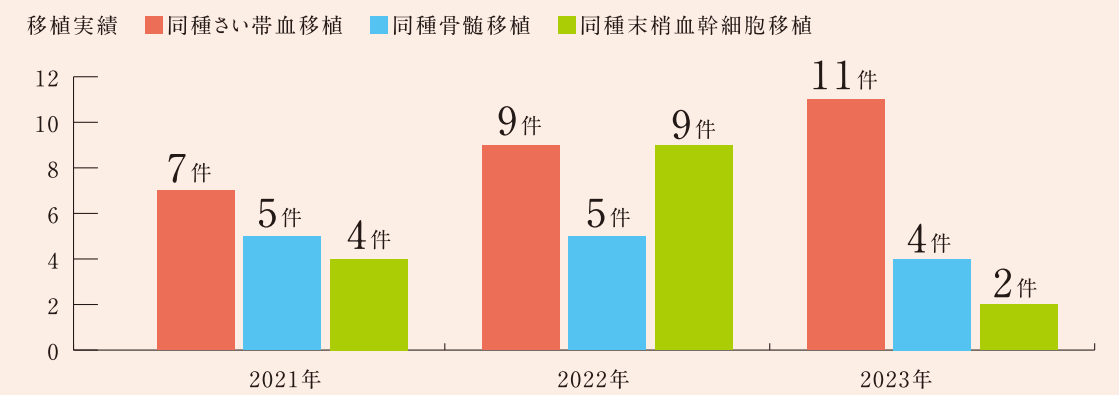
事務 瓜生 千晴

看護師 鈴木 裕子

当院には、日本造血・免疫細胞療法学会の認定を受けたHCTCが2名在籍しています。HCTCとは、造血幹細胞移植が行われる過程の中で、ドナーの善意を生かしつつ、移植医療機関や関連機関との円滑な調整を行うとともに、患者さん・ドナー及びそれぞれの家族の支援を行い、倫理性の担保、リスクマネジメントにも貢献する専門職です。HCTCは病院内で並行して進められる複数のコーディネート状況を把握・管理しています。外来では退院後・長期フォローアップ中の支援として、患者さん・家族と移植前から継続して関わっている関係性を生かし、体調の変化や日常生活での困りごとの相談や精神的なサポートも行い、医師・LTFU看護師と協働できるよう活動しています。

造血幹細胞移植

白血病などの血液のがんや造血幹細胞そのものの病気により正常な血液細胞をつくることができなくなった患者さんに、骨髄や末梢血、さい帯血（へその緒の血液）から採取した健康な人（ドナー）の造血幹細胞を移植して置き換える治療です。当院は、非血縁者間造血幹細胞移植認定施設（骨髄バンク・さい帯血バンク）です。大量抗がん剤治療後に患者さん自身の造血幹細胞を移植する「自家移植」と提供者（ドナー）の造血幹細胞を移植する「同種移植」治療に積極的に取り組んでいます。特に「同種移植」の場合、移植片対宿主病（GVHD）など様々な合併症により、長期間のフォローアップが必要となります。多職種スタッフと連携したチーム医療により治癒を目指します。



LTFU専門看護師

造血幹細胞移植を受けた患者さんに長期にわたり寄り添う専門看護師



明崎 歩

末光 美智子 高安 奈緒子 永尾 亜里沙 徳王 咲機 山田 亜紀子

LTFU外来とは、移植後長期フォローアップ外来の略です。同種幹細胞移植後患者の外来でのフォローアップに継続的に加わり、さまざまな病態・問題に対して適切に指導・介入を行います。私たち6名は総合7階病棟で看護師として働きながらLTFU外来も行っています。病棟看護師がLTFU外来を行うメリットは患者さんが移植前、移植後にどのような経過をたどり、どれだけ頑張ってきたかを間近で見て、その患者さんの性格なども理解した上で効果的な指導ができることだと考えています。患者さんも医療チームの一員として自分の状態を正しく知り、自分で異常を判断できるよう指導を行うことで異常の早期発見に努められるよう日々活動しています。

輸血・細菌検査課

血液内科と協働し 血液を守る技術者

輸血検査室の役割は輸血療法が必要な患者さんに対して安全な輸血製剤を迅速に供給することです。そのため検査技師は24時間体制で輸血に必要な血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験などを実施しています。輸血検査室は移植という分野で血液内科と深く関わっています。血液内科では骨髄・臍帯血・末梢血幹細胞などの造血幹細胞移植を実施しており、取り寄せた造血幹細胞を輸血検査室で適切に冷凍保管しています。血液型不適合移植後の患者で血液型が変化している患者さんも輸血検査室でフォローし、血液型がドナー型に切り替わったタイミングで担当医に連絡するなど、日々安全な輸血療法が出来るように心掛けています。

臨床検査技師 浦塚 祐希



外来化学療法室

患者さんの自分らしい生活を サポートするための治療空間

がん化学療法看護認定看護師は、患者さんが抗がん剤の治療によって生じる副作用の予防について知り、そして患者さんがセルフケアを実践ができるように支援を行っています。現在、外来化学療法室では、治療を継続しながら社会生活を送られる患者さんが多いです。そのような今、外見を起因とするがん患者さんの苦痛を軽減するアビランスケアを行っています。また、治療や生活に関する困りごとや不安なことを相談できるがん患者さん窓口があります。患者さんに寄り添い、“自分らしくいられる”ようにサポートしています。

がん化学療法看護認定看護師 安田 美子



臨床工学課

CAR-T細胞療法に欠かせない アフエーシスの操作者

CAR-T細胞療法は、患者さん自身のT細胞を活用する革新的ながん治療法です。臨床工学技士は、患者さんの体調や不安に配慮しながら、アフエーシス装置（成分採血装置）の操作やモニタリングを行い、安全かつ正確な細胞採取に努めています。装置を適切に操作することはもちろん、採取中のトラブルを防ぐためのモニタリングや迅速な対応に加え、血液内科の医師や看護師と密接に連携し、患者さんが安心して治療を受けられるよう全力でサポートしています。

臨床工学技士 森田 真



中央検査課

血液疾患の発見や治療に 必要不可欠な検査のプロフェッショナル

血液疾患の診断、治療効果判定、移植後の経過観察、予後推定等に必要とされる検査のひとつに骨髄検査があります。当院の血液内科では年間約450件の骨髄検査が実施されています。私たち臨床検査技師は骨髄検査に同行し、採取された骨髄液の塗抹標本をベッドサイドにて作成します。作成した骨髄標本は中央検査室に持ち帰り、顕微鏡で観察ができるよう種々の染色を行います。その後、骨髄液中の細胞の形態を細かく観察し、細胞一つひとつを分類していきます。患者さんの病気の発見や治療に、より有用な検査結果を提供できるよう努めています。

臨床検査技師 金子 沙知

